

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第3回坂戸市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和8年1月13日(火) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時30分
開 催 場 所	坂戸市役所 2階 201会議室
議 長 (委 員 長)	横田 政行
出 席 者	臼井 健一、田中 孝次、菅原 繁子、石橋 妙子 菊地 隆志、市川 なお美、三宅 裕美子、田中 映子 鹿ノ戸 久美子、久保田 美穂、杉田 義昭、加藤 拓 小川 孝、横田 政行 14名出席
欠 席 者	金丸 行男 1名欠席
事 務 局	太田教育長、三田教育委員会事務局部長 清水教育委員会事務局次長兼スポーツ推進課長、 菅野社会教育課長、神社会教育課課長補佐 橋村社会教育課主事 6名出席
会 議 次 第	別紙のとおり
配 布 資 料	別紙のとおり

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司会 (事務局)	1 開会
委員長	2 あいさつ 御多用の中、出席をいただき感謝申し上げます。本日は協議事項1件、報告事項3件である。本日の会議も本市の社会教育をより一層の充実を図るために、委員の皆様には忌憚のない御意見をいただきたい。御協力のほど、よろしく願います。

<p>教育長</p>	<p>御多用の中、出席をいただき感謝申し上げます。</p> <p>本日参加された委員の中には、先日の20歳の集いについて、御臨席いただき重ねて感謝申し上げます。感謝する。</p> <p>さて、本日は、「家庭教育充実のための具体的な施策アンケート結果」として、第2回会議で「家庭教育充実のための具体的な施策」について市内児童・保護者にアンケート調査を行った結果について協議いただきたい。今後の家庭教育支援事業のより一層の充実を図るためにも、委員の皆様には忌憚のない御意見をいただきたい。御協力のほど、よろしく願います。</p>
<p>司会（事務局）</p>	<p>3 資料の確認</p>
<p>議長 （議長：委員長）</p>	<p>「社会教育委員会議規則第3条」の規定により、ここからは委員長に議長をお願いする。</p>
<p>事務局 （社会教育課）</p>	<p>4 協議事項</p> <p>(1) 家庭教育充実のための具体的な施策アンケート結果について</p> <p>（資料1に沿って説明）</p> <p>令和7年度第2回坂戸市社会教育委員会議で、「家庭教育充実のための具体的な施策」について協議いただいた。協議いただいた中で現状の児童や保護者の状況について、市内児童・保護者にアンケートを行った。児童は5問、保護者は6問の質問を行った。</p> <p>児童アンケートについて報告させていただく。期間は令和7年11月4日（火）から令和7年12月12日（金）。対象者は坂戸市立小学校在籍児童（4,307名）回答者及び回答率は3,382名（78.5%）である。</p> <p>各設問回答について説明する。</p> <p>Q1「おうちの人とやくそくしていることはありますか」では「ある」が多く、83.6%であった。</p> <p>Q2「「ある」の人、どんなやくそくかおしえてください」では、低学年は就寝・起床時間、身支度や食事などの日常生活の決まり、外出時や家庭内での安全に関するルールが多く、軽微であり、時間や行動を保護者が管理している、「保護者が主体となっているルール」が多くあった。</p> <p>高学年の場合はスマートフォンやインターネット、SN</p>

	<p>S等の利用に関する決まり、宿題や学習時間の管理、帰宅時間や友人関係に関するルールなど低学年と比較して、「自己が主体となり、管理や判断を求められるルール」が多く見られた。</p> <p>Q3「「ある」の人、どうやってやくそくをきめましたか」では、「家族が決めた」が41.2%と半数程度である。低学年と高学年比較した場合、高学年は低学年に比べ「家族と一緒にきめた」が2%高く、理由や背景を理解し、話し合ってルールを決める傾向があることが分かった。</p> <p>Q4「あなたがやってみたいやくそくをおしえてください」では低学年児童は、日常生活を楽しく過ごすことやわかりやすさを重視したルールを望む意見が多く見られた。内容としては、「お手伝いをしたい」や「友達や兄弟、姉妹と遊びたい」など身近な希望が多く、ルールを守るものであると同時に「楽しみにつながるもの」として捉えている傾向が見られた。高学年児童は、自分で決める・選ぶことや納得感・柔軟性を重視したルールを望む意見が多く見られた。内容としてはお小遣いを増やしてほしいなど「一律の制限よりも自分の裁量を判断や管理をする姿勢」が見られた。</p> <p>低学年・高学年ともに「家族で遊びたい」や「旅行にいきたい」などの意見が多く見られ、共働き家庭の増加により家庭内で「家族の時間」が取れていない傾向が見られた。</p> <p>Q5「あなたがたいせつだとおもうやくそくをおしえてください」では、低学年児童は安心して生活するための基本的なルールを大切だと捉える意見が多くあり、内容としては「知らない人についていかない」や「一人でどこかへ行かない」など日常生活で繰り返し指導されている行動に関する回答が多く、ルールを「守ることで安心して過ごせるもの」と認識している傾向が見られた。</p> <p>高学年児童は、低学年に比べて、人との関係性や信頼を重視したルールを大切だと考える意見が多く見られた。内容としては、「お金の貸し借りをしない」や「門限を守る」など行動の結果から他者への影響を意識した内容が多く、ルールを「人間関係を円滑にするためのもの」として捉えている傾向が見られた。</p> <p>結果から、家庭内でのルールの捉え方は成長段階で、生活習慣の定着を意識する段階から人との関係性や自立を意識する段階へと発達に応じて変化しており、一律に管理する</p>
--	--

ものから、対話を通じて合意形成を図るものへと役割が移行しているものと考えられる。

保護者アンケートの結果について報告する。

Q1「家庭内で子どもと約束していることはありますか」では、「ある」が92.4%と児童よりも多く、児童よりも多いのは保護者が約束と認識しているが、児童が家庭の約束という認識がない可能性が考えられる。

Q2「「ある」場合どのような約束か教えてください」では、「基本的な生活習慣の定着」「社会性や礼儀の基礎形成」「学習習慣の定着」「デジタル機器の適切な利用について」「外出時の防犯対策」の5点を主に重視する意見が見られた。

Q3「「ある」場合、どのように約束をきめましたか」では保護者へのアンケートの結果、「子どもがきめた」は、0.1%。「保護者がきめた」は36.6%。「子どもと一緒にきめた」は55.0%の割合で回答があった。「子どもと一緒にきめた」の割合が児童よりも高いのは、児童と一緒に決めたのではなく、保護者が決めたと思っている可能性が考えられる。

Q4「子どもとしたい約束を教えてください」では、「基本的な生活習慣の定着」「社会性や礼儀の基礎形成」の2点を主に重視しており、家庭内での役割や自立について興味が見られた。

Q5「家庭内で必須だと思う約束を教えてください」では、「社会性や礼儀の基礎形成」「外出時の防犯対策」など日頃から子どもに伝えているのか、子どもからも同様の意見が多くあった。

Q6 市内児童保護者からは、家庭内での教育充実のため希望する事業として「具体的な家庭教育に関するリーフレットなどの指導資料」「相談体制の整備」「保護者向け学習講演会」「保護者向け交流会」の4点を望む意見が多く見られた。

アンケート結果から、保護者は家庭内でのルールとして必要なものは、子どもの安全の確保から社会性や礼儀の基礎形成と成長段階に応じて家庭内のルールを変更することにより、柔軟に対応していることがわかった。

家庭教育の充実のためには、年代に応じた情報の提供として「講演会等の保護者の学習」や「子どもと見れるリーフレット等の指導資料」を通じて、子どもと共に学んでいく姿勢があることがうかがえた。

	<p>保護者及び児童アンケートを比較し、最も異なるのは希望する約束で子どもは「家族と遊びたい」や「家族と旅行に行きたい」などの意見が多くあったが、保護者はその意見が他と比べて少なかった。これは共働きなどにより、家族の時間が少なくなった影響により、保護者は子どもの健全な育成を願っているが、子どもは保護者との時間を欲している傾向があり、家庭の約束は保護者⇒子どもに対するものだけでなく、子ども⇒保護者へ対するものでもあるということがわかった。</p> <p>今回の結果から見えてきた課題や、現在の状況をふまえ、本市の家庭教育をさらに充実させるため、社会教育委員の意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>以上の説明について、意見や質疑等はあるか</p>
委員	<p>平成29年度「家庭の約束」の作成に携わった委員である。当時は小委員会を立ち上げ、「かていはたいせつ」の頭文字をとって、各家庭で活用してもらえるような約束を作成したが、当時はアンケートなどで意見を取っていなかったもので、非常にいいデータであると思う。</p>
委員	<p>児童の回答の中に「友達が来ても保護者がいないなら家に上げてはいけない」や「一人の時は友達が家に来ても開けてはいけない」など時代を感じるルールが多くあり、全体の結果でも防犯意識が非常に高いことが見受けられ、その点が以前の家庭の約束に組み込まれていないため、現状の大きな問題点であると感じた。</p>
委員	<p>「家庭の約束」の作成に携わった委員である。先ほど他の委員からもあったが、防犯に関することは前回の家庭の約束には組み込まれていないが、おおむね家庭内で保護者から子へ約束することは、時代の変化でそこまで変わらないと感じた。約束は当事者同士でするもので、ルールは社会的に一方的に決められるもののように感じるため、今回のアンケート結果を踏まえて変更するにしても、約束という名称は残した方が良いと感じる。</p>

委員	<p>2つ質問させていただきたい。1つ目は、項目については事務局が考えたのか、別の市町村のアンケートを参考に作成したのか。2つ目は、近隣の市町ではどのような状況なのか。近隣の市町の状況が参考になると考えたため伺いたい。</p>
事務局 (社会教育課)	<p>1つ目について、項目については、事務局で考えたものを第2回の社会教育委員会議内で御覧 いただき、いただいた委員の方の意見を踏まえ作成させていただいた。</p> <p>2つ目近隣市町のアンケートについてだが、次回第4回社会教育委員会議にて報告させていただく。</p>
委員	<p>現在の家庭では、家庭でルールや約束を守らないという規範意識の醸成がされていないというのが問題となっているように今回のアンケート結果を見て感じた。特にSNSやゲームについては、保護者自身が触れていない可能性もあるため、教育が難しい。そのため、研修会などを希望する声が多いのではと考えられる。今後作成する家庭の約束ではSNSに関する事項は必要だと感じる。</p>
委員	<p>他市では、スマホやゲームの時間は2時間までと条例ができるほど社会現象にもなっている感覚があったため、保護者アンケートから社会性や礼儀に関することが多いことに驚いた。社会性や礼儀は学校や地域で育まれていくものであり、家庭で必須の約束という点では、違和感がある。その辺りを掘り下げていくとよいと考える。</p>
委員	<p>家庭教育を先導するのは保護者である。それを考慮したうえで今回のアンケート結果で「希望する事業を教えてください」の項目において、「親の学習の場」を望む声が多くあることがわかる。現代の保護者たちを見ると共働き等の増加により研修会等の事業を催しても忙しくて出席できず、家庭教育学級など保護者たちの勉強する場が減ったように感じる。このアンケート結果をプラスに捉え、来年度以降できるだけ出席できるような家庭教育学級などの保護者の勉強会を計画するとよい。</p>
委員	<p>保護者の教育は非常に難しいと感じる。学校でも児童と</p>

<p>委員</p>	<p>保護者を対象にネットモラルについて研修をしている。しかし、保護者はほとんど来ない。現状、児童のスマホ利用について、保護者が管理できないことが多く、人の悪口を書き込むケースもあり、スマホの管理に関する啓発が必要であると感じる。また、金銭に関する管理についても、保護者が管理できておらず、友達と平気で貸し借りをするケースもある。特にスマホに関しては、保護者がゲームやYouTubeで動画やSNSにはまっている世代であり、保護者を対象にした研修会の必要性を感じる。</p> <p>中学校で保護者にアンケートを取ると、ネットモラルに関する研修会をやってほしいや、啓発紙がほしいという声が多くあるが、教員だけは開催が難しいため、運営等の協力をお願いすると協力希望者がいないのが現状である。学校現場だけでは、スマホの利用制限等は限界があるため、ぜひ家庭で制限をかけるなどの約束はあった方がいいと考える。また、防犯・防災の項目があったが、内容を見るとほとんど防犯のことであり、防災に関してはあまり興味関心がないように見える。各家庭で非常時の行動はあらかじめ決めておいた方が良く感じるため、そのような啓発の必要性も感じる。</p>
<p>委員</p> <p>事務局 (社会教育課)</p>	<p>今回のアンケート結果は、保護者や児童に送る予定はあるのか。公開し、今回市内の保護者が希望したものを行ったと感じた方が当事者意識が生まれ、より啓発効果が高まると感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>新たに「家庭の約束」ができたタイミングで公開する。</p> <p>「どうやって約束を決めましたか」の項目で、児童は「自分で決めた」と回答したのが9.3%に対し、保護者は0.1%であり、意識の違いが伺える。また、「家族で決めた」は保護者が55%で非常に高く、保護者は子どもと一緒に約束を決めたという思いが強いが、子どもにはないのが結果から伝わってくる。また、大切な約束では、児童・保護者ともに防犯・防災に関することが高く重要だというような思いが強いが、子どもとしたい約束には保護者は非常に少なく0.65%であるということは、既に各家庭である程度の防犯・防災に関する約束は確</p>

<p>教育長</p>	<p>立されていることがわかる。現状の約束についてより深掘りすると、現代家庭のニーズについて知ることができると思う。</p> <p>今回のアンケートのように「どんな約束がしたいですか」など、文章化すると子どもとの話し合いも、何のために約束があるのか、意味を理解し、守らなければいけないことを守れるように育てていくことができると感じた。</p> <p>委員の皆様からの御意見に感謝する。今回家庭教育に関する事業について社会教育の管轄で行っているが、学校教育と分けるものではないと考えている。先ほど委員からあったが、アンケートを見ると保護者は学習の場を望んでいる意見が多くあった。事業を行うにしても求められていることを行わなければならない、相手方が何を求めているのか情報を地道に共有していくことが行ってよかったと感じる事業の第一歩になると感じる。それには、ニーズだけでなく、参加しやすいような日時に行うなどが必要である。保護者が忙しい時代になっている、教育委員会としても一年間に何度も研修会などの事業を行うのではなく、横のつながりを強化し、課を超えて合同で開催できるよう努めていきたい。また、これから作る新たな「家庭の約束」について、家庭において非常に大事なものになる。そのため、ただ渡して、書いてあることを家庭で指示をするだけではいけない。渡し方を工夫し、どう普及しているのか、見届けていく必要がある。そのため、今回、そして次回だけで決めるのではなく、長い目を見て、作成だけでなくどう見届けていくのかその点についても委員の皆様のお借りたいと考えている。</p>
<p>議長（委員長）</p>	<p>ほかに御意見等があればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>特になし</p>
<p>事務局 （社会教育課）</p>	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 令和7年度少年の主張大会の結果について （資料2に沿って説明）</p> <p>11月15日（土）入西地域交流センターにて少年の主張大会を開催した。</p> <p>日頃感じていることや考えていることをテーマに、小学</p>

	<p>生・中学生・高校生が一生懸命発表した。昨年度、「もっと多くの方に見ていただけるように周知をしてほしい」という御意見をいただいたため、今年度は発表順を高校生・小学生・中学生の順番に変更して行った。理由としては、小・中学生の保護者やその関係者が小・中学生発表が終わり次第すぐに退席してしまうことが多かったため、最後まで見てもらえるよう行わせていただいた。また、例年審査の時間を活用し、研修DVDを視聴しているが、今年度は審査の時間を活用し、県立坂戸高校ダンス部の皆様にダンスパフォーマンスを行っていただいた。また、多くの参加者から発表が非常に良かったという意見をいただいた。これについては各学校の御協力あつてのことであると考えている。感謝申し上げます。</p> <p>また、高校からの応募が近年筑波大学附属坂戸高校のみとなっているので、多くの高校から応募をいただけるよう、改善していきたいと考えているので、来年度に向けて検討していく。</p> <p>今回発表していただいた13名の方につきましては、来年度の埼玉県少年の主張大会に出品をさせていただく予定である。</p>
<p>事務局 (社会教育課)</p>	<p>(2) 令和7年度地域交流センター文化祭の結果について (資料3に沿って説明)</p> <p>今年度、10月19日、26日の2日間にわたり、全9交流センターで実施した。残念なことに、両日も雨であり、来場者数は前年度から減っている。しかし、各地域交流センターにおいては参加者増加に向け、地元の中学校の吹奏楽部に演奏依頼や、地元の小学校にチラシを配るなど周知について力を入れて行った。そのため、今年度に関しては、大人だけでなく、子どもなど、色んな世代の方に参加していただけたと各地域交流センターからの感想としてあった。大きなトラブル等もなく無事に終了した。社会教育委員の皆様には、日頃から御参加いただいたき改めましてお礼申し上げます。</p>
	<p>(3) 第24回坂戸市民チャリティマラソンの大会結果について (資料4に沿って説明)</p>

<p>議長（委員長）</p> <p>委員</p> <p>議長（委員長）</p> <p>委員</p> <p>議長（委員長）</p> <p>事務局 （社会教育課）</p>	<p>11月16日（日）、坂戸市民総合運動公園を会場に開催した。大会終了時刻は、10Kmの部の最終ランナーがゴールをした時間となっている。交通規制の時間を過ぎてのゴールとなったが、後尾車が最終ランナーを追走し、安全にゴールすることができた。</p> <p>申込者数は、昨年度の1,429名を163名上回った。受付者数は1,714名で、申込者数に対して91.26%、完走者数は1,600名で、受付者数に対して93.34%の完走率となっている。</p> <p>気象状況については、当日午前9時の時点で10.1℃と例年に比べると非常に走りやすい気候であった。</p> <p>けが人等については、応急処置4件のうち、擦り傷2件、靴ずれ1件、貧血1件であった。4名は回復し、自力で帰宅した。</p> <p>大会記録については、3Km女子小学生の部（5年生以上）と、10Km男子50歳の部、10Km男子60歳以上の部の3種目において、大会新記録が出た。</p> <p>役員協力については、体育協会をはじめスポーツ推進委員、警察、消防、交通指導員、ボランティア及び市職員に御協力いただき、大会を運営した。</p> <p>以上の説明について、質疑等はあるか</p> <p>質疑無し</p> <p>続いて、その他として委員の方から報告事項があればお願いしたい。</p> <p>意見なし</p> <p>続いて、事務局よりお願いしたい。</p> <p>6 その他</p> <p>(1) 第4回坂戸市社会教育委員会議の予定について</p> <p>日時 2月13日（金）13時～</p> <p>会場 筑波大学附属坂戸高等学校</p> <p>となる。よろしくお願いしたい。</p>
---	--

副委員長	<p>7 閉会</p> <p>寒い中、長時間にわたり慎重審議をいただいたことに、感謝申し上げます。お身体を御自愛され、委員の皆様が御活躍されることを祈念する。</p> <p>では、第3回社会教育委員会議を終了する。</p>
------	---